

1 授業の概要

各教科等：自立活動

学部・学年：高等部第3学年1組 単一障害学級Ⅱ類型

題材名：コミュニケーション・基本的能力を高める

2 目標からみた育てたい資質・能力

育てたい資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
・コミュニケーションボックスや言葉を遣い、場面に応じた具体的なやりとりができる。	○	○	
・指示された活動や準備、片付け等、自主的に取りかかることができる。			○

手立て



- ・腹筋や口周りの筋肉を動かし、有声音を出す練習を行う。
- ・「びっくりした」「楽しい」等、表情カードや大きな音を出す道具等を使い、指導者と感情を共有することで、場や環境に応じた気持ちを理解させる。
- ・コミュニケーションボックスを使い、カードの意味付けや語彙の習得、会話の練習を行う。



参観者との意見交換

- ・身体接触を行うストレッチでは、男子生徒ということで男性教師が行う方が良いのではないか。
- ・自分でできるストレッチを取り入れたら良いのではないか。
→できるだけ接触して指導する場面を減らす。腹筋運動の支援では棒を握らせ、握るための指の使い方や握力の向上も狙えるように変更した。
- ・中学部から「名刺」「前置詞」「副詞」を学習させてきたが、継続した指導が必要ではないか。
→そう思う。言葉の習得は「考える」基礎であり、認知するための要素であると思っている。

3 生徒の変容と課題

- ・有声音での言葉が明瞭になり聞き取りやすくなってきた。休憩時間には、「授業時間・休憩時間」のカードを自分で裏返し「プレイルーム行きます。」と、要求を伝えることができるようになってきた。
- ・給食では、特別な配慮（眩いた言葉に反応が必要、席の位置やパーテーション等環境の整備）を行わなくても、周りの生徒と一緒に食べ「ごちそうさま」と言って自分から片づけることが定着してきた。
- ・場面や対応する人に関係なく、同じ力が発揮できるような「般化」に向けた取組と、卒業後の生活への移行支援体制が課題である。